１章　マスタークラス実施報告

1章　マスタークラス実施報告

1－1　概要

あらゆるスタイルに対応できる技術と柔軟性を養うことを目的として、プロフェッショナルダンサーとしての活躍が期待される若手を対象に、世界的に高い評価を得ている優秀指導者によるマスタークラスを実施した。平成27～平成29年度に引き続き、モナコ・プリンセス・グレース・バレエ・アカデミー教師のローラン・フォーゲル氏、並びにサンフランシスコ・バレエ・スクール校長のパトリック・アルマン氏を招へいし、日本バレエ団連盟会員団体の4団体において指導を依頼した。また、その成果を、日本におけるダンサー育成環境の開発と整備の一助とすべく、将来プロを目指す若手ダンサーとその指導者に対して公開した。

1－2　ローラン・フォーゲル氏によるマスタークラス・公開レッスン

講師紹介

ローラン・フォーゲル　Roland Vogel

ジョン・クランコ・バレエ・スクールで学び、シュツットガルト・バレエ団に入団。

『白鳥の湖』、『眠れる森の美女』、『ラ・バヤデール』などの古典バレエに主演、ジョン・クランコの『オネーギン』、『じゃじゃ馬馴らし』などの物語バレエをはじめ多くの作品を踊り、ダンサーとしてのキャリアの最後までシュツットガルト・バレエ団で活躍した。20世紀を代表する世界的振付家の数多くの作品に主演するとともに、J・ノイマイヤー、U・ショルツ、D・ビントリーらの新作の初演キャストも務めている。

1998年の長野冬季オリンピック大会の開会式でU・ショルツ振付『若い男』のパ・ド・ドゥを踊り、1999

年には『オネーギン』のタイトルロールでブノワ賞にノミネートされた。

1999年から2001年にヴュルテンベルク州立歌劇場の教育訓練プログラムに参加、ジョン・クランコ・スクールでクラシック・バレエ教師の資格を取得した。ダンサーとしてのキャリアを終えると直ちに教師に転じ、マリカ・ヴェゾブラゾヴァに招かれモナコのプリンセス・グレース・バレエ・アカデミーの教師陣に加わる。以来、現在のディレクターであるルカ・マサラの下でダンサーの育成にあたり、スクールのために多くの作品を振り付けている。

「ヨーロッパ・ダンス」、カンヌ・ロゼラ・ハイタワー・のゲスト教師、また、中国、日本では様々なスクールにおいてワークショップ指導を行っている。北京の中国国立バレエ団にはゲスト教師として定期的に招かれ、クランコの『オネーギン』、『ロメオとジュリエット』、U・ショルツの『第七交響曲』、『白鳥の湖』などを指導した。

東京のNBAバレエ団のコンクール審査委員会メンバー、ニューヨークのユース・アメリカ・グランプリの審査員を務め、2011年の第1回北京国際バレエ・コンクールにはゲスト教師として招かれた。2014年に振り付けた『オーゲンブリック』パ・ド・ドゥは、北京舞踏学院60周年記念のオープニングで踊られ、モンテカルロ・バレエ団の協力を得てプリンセス・グレース・アカデミーでも上演された。

● マスタークラス実施概要

対　象：5月21日（月）～25日（金）：牧阿佐美バレエ団
　　5月28日（月）～6月1日（金）：東京シティ・バレエ団
　　※期間中、1日あたり2クラスのマスタークラスを実施。
指　導：ローラン・フォーゲル

＜マスタークラス指導の様子＞

（牧阿佐美バレエ団）

（東京シティ・バレエ団）

● マスタークラス参加ダンサーへのアンケート結果

（1）回答者概要

牧阿佐美バレエ団：回答者21名（学習年数平均20.2年、在籍年数平均5.6年）

東京シティ・バレエ団：回答者28名（学習年数平均20.2年、在籍年数平均5.4年）

（2）理解度

（5段階評価：理解できた／ほぼ理解できた／どちらともいえない／あまり理解できなかった／理解できなかった）

牧阿佐美バレエ団：理解できた42.9%、ほぼ理解できた57.1%

東京シティ・バレエ団：理解できた64.3%、ほぼ理解できた35.7%

（3）満足度

（5段階評価：大変満足／満足／普通／不満／大変不満）

牧阿佐美バレエ団：大変満足57.1％、満足38.1％、普通4.8%

東京シティ・バレエ団：大変満足75％、満足25％

（4）満足度の理由に関する声〜抜粋〜

（満足度の理由、クラスでの気づき、今後のレッスンに取り入れたいと思ったこと等）

音楽性・表現力について

- バレエを踊る上で音楽がどれだけ大切か改めて気づいた。
- 音の取り方一つで踊りが変わっていくことに改めて気づかされた。
- 音楽の大切さや、内面的なものが外見にも影響するということを教えていただいた。
- 音楽やパについて、今までとても曖昧な認識で踊っていたことに気づかされた。

- 音の取り方についての細やかな指導により、パの求めている意味や役割を理解できた。
- 音の取り方や、呼吸のタイミングが上手く組み合わさっていない踊りはつまらない、ということに気づいた。
- 上半身が使い切れていなかったこと、音を感じられていなかったことに気づかされた。
- 音の使い方を感じさせてくれた。どのように体を使ったらどのように舞台上で見えるのか、わかりやすく説明してくださり、大変参考になった。
- テクニックやアンデオールの重要性も改めて感じたが、何よりも大きく表現することや積極性の事を指摘していただき、ダンスの根本の部分を思い出すことができた。
- 表情について、多くの指摘を受けた。日頃のレッスンから、舞台に立っている意識を忘れず、表情まで含め全身で表現するようにしたい。
- 足の動きだけでなく、全身で踊る、ということについて考えさせられた。呼吸についても。
- もっと大きく強く身体を使わなければならないと気づいた。
- 思っている以上に下を見て踊っていることに気づかされた。
- 重心を置く場所によって、次の動きが変わることがよくわかった。
- アンシェヌマンの組み方が工夫されていて、音楽や基礎への理解が深まった。

基本の大切さ

- 忘れがちな基本的なポイントをしっかり注意して下さり、身になるクラスだった。
- 音の取り方や基本のアンデオールをしっかりと教えて頂くことができ、勉強になった。
- プリエの大切さに改めて気づかされた。
- 日々のレッスンでトレーニングしていくものが、舞台に立った時の質の高さになるのだと改めて気づいた。

指導方法について

- お手本が大変美しく、とても勉強になった。
- うまくいかない理由を明確に説明して下さるので、納得しながらレッスンできた。
- 一人ひとりのことを丁寧に見て下さり、パワフルで楽しいレッスンだった。
- 日本人の身体のつくりを理解した上でのアドバイスをいただくことができた。説明もとても分かりやすく、根気よく熱心にご指導くださった。
- とてもパワフルなクラスで、先生の指導への情熱とエネルギーを間近に感じた。
- 普段のクラスと違う視点からの注意が多かったため、多くの気づきがあった。
- 英語が良く分からない自分にもわかりやすく伝えて下さり、指導内容を実践できた。
- 2日ずつ同じレッスン内容にして下さっていて、1日目は順番を追うだけで終わってしまっていたアンシェヌマンも、翌日もう1度できたので自分の中で消化しやすかった。

クラスによる効果の体感

- クラス後の体の引き上がり方が普段と全く違い、とても踊りやすかった。
- これまで、体の引き上げが全然足りていなかったことがわかった。
- 上半身や細かな筋肉の使い方などを教えて下さり、新しい身体の使い方ができるようになった。
- ひとつひとつの動きのアクセントを意識して、音楽にのっていくと、自然と身体がまとまって踊りやすい身体になった。
- 指導内容を実践していたところ、周りから短期間で踊りが変わったとの声があった。

今後活かしていきたいこと

- 基本の大切さを改めて認識した。基本に立ち返り、日々のクラスレッスンを重ねたい。
- 呼吸や音楽を感じて、普段のレッスンからもっと表現するようにしたい。
- 音楽をよく聞いて、踊りと音楽を調和させる練習を日々のクラスからしていきたい。
- 普段のレッスンから、生き生きと踊ること、魅せることを意識していきたい。
- 動作の前の呼吸や、アームスと脚のコンビネーションの意識を忘れないようにしたい。
- 日々のバーレッスンで、もっと肩や背中のポジションを重視するようにしたい。
- ポジションをはっきり見せ、大きく動くことを忘れずにレッスンしたい。

● 公開レッスン実施概要

日　時：6月2日（土）10:30〜12:30
会　場：芸能花伝舎　C1（東京都新宿区西新宿6-12-30）
指　導：ローラン・フォーゲル
実　技：東京シティ・バレエ団ダンサー　28名
見学者：39名（バレエ指導者16名、学習者23名）

見学者の声 〜抜粋〜

- 音楽性や全身のコーディネーションの重要性をよく理解できた。（指導者）
- ダンサーへの注意のしかたが大変参考になった。ダンサーに響く言葉の選び方、イメージの持たせ方などのヒントがたくさん得られた。（指導者）
- アンシェヌマンの動きがとても美しく構成されていて勉強になった。（指導者）
- アクセント、めりはりの付け方、音楽とパのつながり等、音の使い方をもっと教えてよいのだと、参考になった。（指導者）
- 単調にならずに、音楽を身体で表現することの大切さがよくわかった。（学習者）

• 上体の使い方や、手足の運び方がとても参考になった。（学習者）
• 間近にプロのダンサーのレッスンを見ることができてとても参考になった。（学習者）
• 身体の正しい使い方を客観的に見ることができた。（学習者）

＜公開レッスンの様子＞

（写真撮影：鹿摩隆司）

1−3 パトリック・アルマン氏によるマスタークラス・公開レッスン

講師紹介

パトリック・アルマン Patrick Armand

マルセイユ生まれのパトリック・アルマンは、ルディ・ブライアンズと母のコレット・アルマンに教えを受け、マルセイユ・バレエ学校で学んだ。1980年にローザンヌ賞を獲得し、引き続きスクール・オブ・アメリカン・バレエとカンヌの国際ダンス・センターで研鑽を積んだ。1981年にフランス・バレエ・シアターに入団、1983年にプリンシパル・ダンサーに昇格。同年、ルドルフ・ヌレエフ共演によるベジャールの「さすらう若者の歌」でローレンス・オリヴィエ賞にノミネートされた。1984年、ペーター・シャウフスの招きでロンドン・フェスティバル・バレエ（現イングリッシュ・ナショナル・バレエ）に入団し、ブルース・マークス監督の下、1990年にボストン・バレエに移籍するまで6年間、同団で踊った。

レパートリーには、アシュトン、バランシン、クランコ、マクミラン、プティ、テトリー、ファン＝マーネンによる振付作品の主役が多数含まれる。中でも、1988年にロンドン・フェスティバル・バレエが世界初演したナタリア・マカロヴァ版の「白鳥の湖」で、ジークフリートを演じたことは特筆に値する。イギリスの雑誌「ダンス・アンド・ダンサーズ」の投票により、彼は同年の年間ベスト・ダンサーに選出された。また、ボーボット、ブルース、サープ、ウィールドン等の振付家が彼のために作品を創作している。ゲスト・アーティストとしては、オーストラリア・バレエ団、バイエルン国立バレエ、ベルリン・ドイツ・オペラ・バレエ団、キーロフ・バレエ、小林紀子バレエシアターに出演している。2002年、マルセイユのコレット・アルマン・バレエ・スタジオの監督を引き継いだ。ゲスト教師としては、アムステルダム、フィレンツェ、ロンドン、ナポリ、東京、トロントのバレエ学校やバレエ団でたびたび教えている。

2003年、東京の新国立劇場において、小林紀子バレエシアターのために「ライモンダ」第3幕の共同演出を行った。2006年、ミラノ・スカラ座の教師及びバレエ・マスターに任命された。また、ザグレブのクロアチア国立劇場のために「ドン・キホーテ」のプロダクションを振り付け、2010年6月に初演された。

1998年から2009年までローザンヌ・バレエ・コンクールの審査員を務め、2010年からは同コンクールの公式男性コーチ及び教師を務めている。2010年にサンフランシスコ・バレエ学校研修生プログラムのトップに任命され、2012年9月1日に同校の副校長に就任。名誉座長を務めた2017年のスチューデント・ショーケース・ディナーにおいて、同校の校長に指名された。

● マスタークラス実施概要

対　象：11月12日（月）～16日（金）：スターダンサーズ・バレエ団
　　11月19日（月）～24日（土）：貞松・浜田バレエ団
　　※期間中、1日あたり2クラスのマスタークラスを実施。
指　導：パトリック・アルマン

＜マスタークラス指導の様子＞

（スターダンサーズ・バレエ団）

（貞松・浜田バレエ団）

● マスタークラス参加ダンサーへのアンケート結果

(1) 回答者概要

スターダンサーズ・バレエ団；回答者17名（学習年数平均21.9年、在籍年数平均6.7年）

貞松・浜田バレエ団：回答者17名（学習年数平均24.8年、在籍年数平均12年）

(2) 理解度

（5段階評価：理解できた／ほぼ理解できた／どちらともいえない／あまり理解できなかった／理解できなかった）

スターダンサーズ・バレエ団；理解できた94.1%、ほぼ理解できた5.9%

貞松・浜田バレエ団：理解できた52.9%、ほぼ理解できた41.2%、どちらともいえない5.9%

(3) 満足度

（5段階評価：大変満足／満足／普通／不満／大変不満）

スターダンサーズ・バレエ団；大変満足88.2%、満足11.8%

貞松・浜田バレエ団：大変満足76.5%、満足23.5%

(4) 満足度の理由に関する声～抜粋～

（満足度の理由、クラスでの気づき、今後のレッスンに取り入れたいと思ったこと等）

基礎の徹底

- 基礎の大切さを再認識した。
- 身体の芯からのアンデオールや、ひとつひとつの動きの軌跡を、いつも以上に丁寧に、そして徹底的に意識する機会となり、多くの気づきがあった。
- バレエに必要な基礎をひとつひとつ丁寧に教えていただき、一から見直すことができた。
- 自分がいかにターンアウトできていないかがわかった。
- 基本を大切にした、美しく、丁寧で的確なお手本から学ぶことがたくさんあった。
- バレエの基礎を徹底されていて、プリエを大事にするテクニックの強さとコーディネートを学ぶことができた。
- 繊細な足先の使い方が非常に勉強になった。
- 体や顔の角度、エポールマンを的確にすることの大切さを改めて強く感じた。
- アームスの大切さ、ポジションに戻ることの大切さに改めて気づくことができた。
- コンディションを整えるだけでなく、日々のクラスレッスンで強化していくべき部分が多いことに気づかされた。

指導方法について

- 的確かつわかりやすい指導が受けられた。
- 細やかな指導を受けることができ、大変ためになった。
- 全員を平等に見てくださり、悪い所は具体的に何が悪いのか、言葉だけでなく全身で表現して指導してくださった。
- ダンサー一人ひとりへの気配りを感じた。
- 注意することだけでなく、褒めてやる気を引き出すことも大切にされていた。
- 怒るのではなく、褒めながら指導くださったことがとても嬉しく、やる気が沸き、楽しみながらレッスンできた。
- 諦めずにとても熱心に丁寧に教えてくださった。

クラスによる効果の体感

- 全身の筋肉で踊っている感覚に気が付いた。
- ゆっくりしたテンポで行うバーレッスンが、身体をつくる上でとても良いと感じた。
- バーレッスンで、足の運び方や上半身の使い方をひとつひとつ丁寧に行うことで、身体のラインを美しくみせることができるようになるだけでなく、自然と体の中心に軸が集まってくるようになった。センターで大きく動くためにも、これまで以上にバーレッスンを大切に行っていきたいと思った。
- わかりやすいシンプルな内容で、コンディションを整えながら、基礎を強化できるクラスだと感じた。
- 音の使い方や、身体の角度が曖昧なだけで使う筋肉が全然違うことを実感した。

今後活かしていきたいこと

- ターンアウトをしっかりすること、バーレッスンの時から軸足をしっかり意識することを忘れずに、今後のレッスンに活かしていきたい。
- パの意味や、どのようにしたら理想の形に持っていけるのかなど、常に基本的なことを考えて、今後の日々のレッスンに臨みたい。
- エクササイズがとてもシンプルだったので、今後のリハーサル等にも活かして踊ることができる。
- 教えていただいた回転のテクニックのコツや、ジャンプのクオリティを、毎日気をつけて練習したいと思った。
- 技術的には大きな問題がなくても、音楽性・表現力にたくさん向上の余地があることに気づかされた。ポールドブラや、上半身をしなやかに使うことで、音楽的に表現できるよう、意識して日々のレッスンを重ねていきたい。
- 自分のレッスンはもちろん、生徒に指導する際にも、シンプルに基本に戻ろうと思った。

● 公開レッスン実施概要

日　時：11月17日（土）10:30〜12:30
会　場：新宿村スタジオ WEST B202（東京都新宿区北新宿2-1-2）
指　導：パトリック・アルマン
実　技：スターダンサーズ・バレエ団ダンサー　27名
見学者：47名（バレエ指導者12名、学習者35名）

見学者の声 〜抜粋〜

- プロでも、プロを目指す学習者でも、注意されることは同じであり、基本の大切さを改めて実感した。（指導者）
- 音楽性がありシンプルでロジカルなアンシェヌマンの組合せが参考になった。（指導者）
- 先生のお手本が大変美しくわかりやすかった。（指導者）
- 「音楽が何をすべきか教えてくれる」「ポジションやパの名前が何をすべきか教えてくれる」という、先生のメッセージが大変参考になった。（指導者／学習者）
- 身体の条件がパーフェクトでなくても、自分の身体を理解し、各自異なる正しいプレイスメントをみつけることが大切、という先生のお話が参考になった。（学習者）
- 床を押すことの大切さや、正確なポジションの大切さをよく理解できた。（学習者）
- 日頃のレッスンで活かしたいと思える様々なヒントを見つけることができた。（学習者）

＜公開レッスンの様子＞

（写真撮影：鹿摩隆司）